



年 頭 所 感

社団法人長崎県建設業協会
会 長 谷 村 隆 三

明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年早々不況の話とはさみしいが、「100年に一度の大不況」と世間は騒いでいる。

学者は何でも分類したがる。アメリカのビリー・ロジャスという人が「不況」を5分類しているそうだ。(山本七平 昭和50年「無所属の時間」PHP文庫)

1. 分割払い型不況：経済の各部門が同時にではなく順次不況に見舞われ、各々そのピークと回復から好況に時間差があり長期化する。
2. なし崩し型不況：徐々にすべての部門が悪化し、長期に不況が浸透する。
3. 手品師型不況：瞬間的にパニック的大打撃を受けるが、政府の対策が刺激となって短期間に回復する。(ニューディール政策ですね。今こそ公共事業を！)
4. 破滅型不況：政府の対策も効果なく、時に逆効果を誘発し、全経済が崩壊する。
5. 戦争指向型不況：説明なし

さて、今の不況はどれ？別の分類方法があってもいいが、今の不況について経済学者も政治家もマスコミもしっかりと分類・分析し、その「傾向と対策」を示す姿勢が足りないように思う。冷静に問題を整理するべき人たちが、逆に情緒的に不況・不景気を語り、国民の不満を煽り、番組ネタにし、政争の道具に使い、厚労省や国交省を血祭りに上げ、「坊主憎くけりや袈裟まで」と、なにもかもごちゃ混ぜにしている。そのような学者も政治家もマスコミも信用しないほうがいい。

話は飛ぶが、薩摩(鹿児島)から明治維新に偉人を輩出したことと桜島の存在とは深く関係していると云われる。美しく泰然としてあり、時に大爆発するその姿はそこに育った人の精神構造を形作ったことは確かだ。喜び、悲しみ、悩み、怒り、自分を見つめ直す・・・いつも桜島があった。

昨年NHK大河ドラマ「篤姫」の時代考証を担当した鹿児島大学教授の原口泉さんは本の中で、薩摩では「負けるな」「嘘を言うな」「いじめるな」という三つを子供の教育指針として受け継いできたと書いている。ただし「負けるな」とは「自分に負けるな」という意味だ。

負けるな。皆様の新年のご多幸をお祈りします。